

## 4. 幸田町防災カルテの作成

正木和明

### 1. カルテの概要

幸田町から平成 18 年度受託研究として「幸田町防災カルテ作成基礎調査」を依頼されたので本カルテを作成した。基本的には従来進めてきた豊田防災カルテの評価手法、評価項目、評価基準を踏襲している。豊田カルテでは評価項目は 6 項目であったが、今回は住民防災力を評価するためのアンケート調査が実施できなかったため、5 項目評価となっている。また、5 項目それぞれのランク付けする細目も、豊田防災カルテよりやや少なくなっている。

### 2. 自治区のカルテ

図 1 は、幸田町自治区ごとのレーダーチャートである。自治区は町全体で 23 あり、そのうちの 2 自治区を示す。自治区のランクと町全体の平均ランクが示されており、その自治区の総合評価と評価項目毎のランクが比較できる。たとえば、横落地域と須美地区を比較すると消防、医療において大きな違いが見られる。横落地区は役場に近接する街の中心街であり、古い家が密集するために消防署が近くにあるにもかかわらず消防ランクが低い。しかし、病院が近くに多数存在することから医療ランクは高い。一方、須美地区は中心部から離れた自治区である。消防団組織が充実しているために消防ランクは高いが、病院から遠いことから医療ランクは低い。このように、防災カルテにより自治区ごとに防災力の評価を行うことができた。

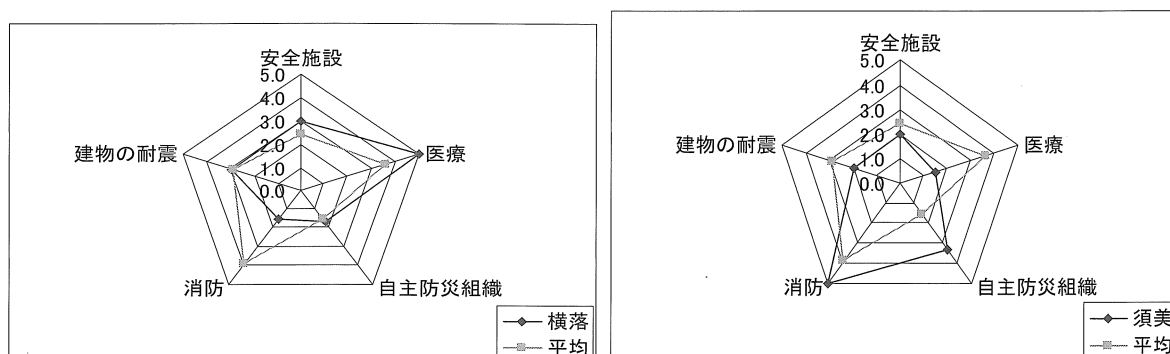


図 1 横落・須美自治区のカルテ。

5 項目ごとにランクが示されている。ランクが高いほど防災力が高いと評価される。

### 3. 豊田市との比較

H 17 年度実施の豊田市の評価と比較した結果を図 2 に示す。両市とも大差は無いが、消防では幸田町の方がランクが高い。これは幸田町が比較的面積が小さく、人口も少ないことが理由である。医療のランクが高いが、人口の多くが中心街に集中していることが理由と考えられる。

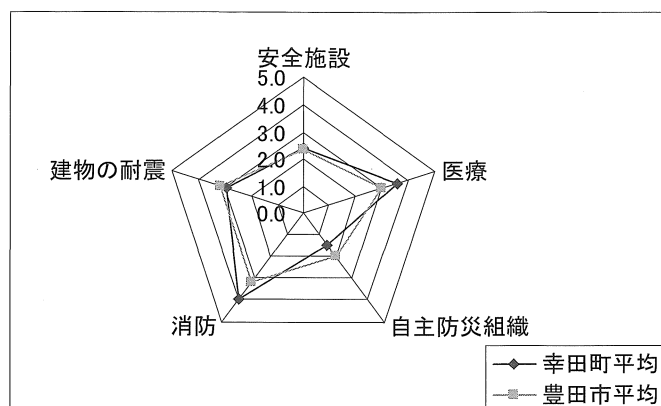


図2 幸田町と豊田市との防災力の比較

#### 4. 愛知県市町村との比較

カルテを評価するための基礎データが少なく（市町村でデータの質が異なるため5項目にすべてについてランク付けを行い防災力を評価することはできなかった。図3に消防力（防火水槽率、消防団組織率）について評価した結果を示す。幸田町は市町村平均値と比較して高いランクにあることが分かる。図4は安全施設（一時避難所数、コンビニ数）についての評価であり、幸田町は平均より高い。図5は人的危険度（人口密度）についての評価である。幸田町は最も低いランクにあり、安全な町であるといえる。

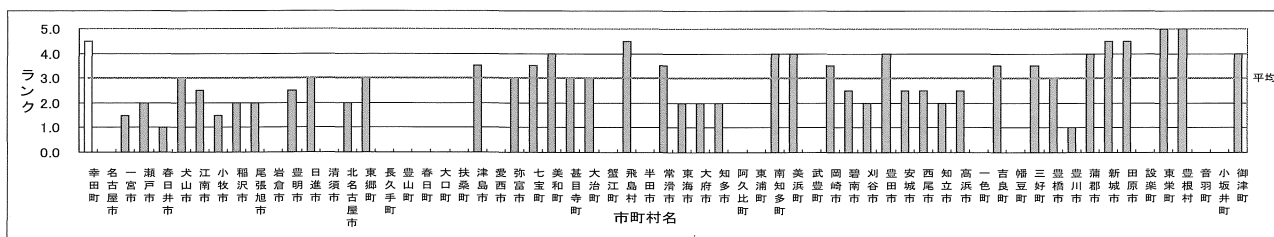


図3 市町村別 消防ランク (防災力評価)

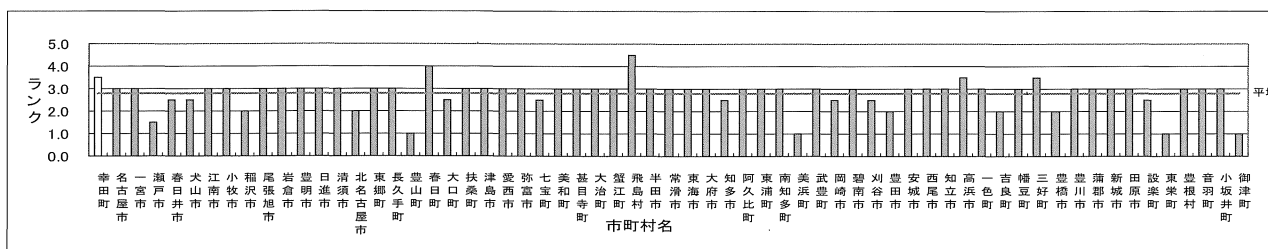


図4 市町村別 安全施設ランク (防災力評価)

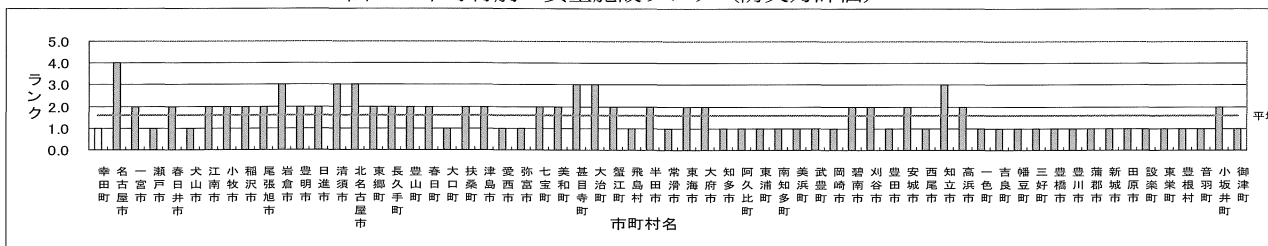


図5 市町村別 人的被害ランク (危険度評価)